



# 昭和大学 医学部 (一般II期)

英語



1

1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
D	D	B	D	B	C	A	A	A	D
11.	12.	13.	14.	15.					
D	A	D	D	A					

2

1.	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	ア	エ	ア	ウ	イ
2.	イ				
3.	イ				
4.	子供が家族の言語を未習得の場合、その代わりに学術的言語を学べばよいという提案があるが、それよりも良い解決策があるから。(59字) [別解] 家庭と学校の言語の違いによる問題の回避には、家庭言語をやめて学校言語に集中すべきという解決策は最善でないことを示すため。(60字) [別解] 家庭言語の使用を継続しつつ第二言語を学校で習得するという最善の手法に対し、母語の使用を止めるべきという真逆の提案だから。(60字)				

3

1.	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	ア	ウ	エ	ウ	イ
2.	ウ				
3.	社会的なつながりが良好であればあるほど、人の精神衛生はますます健全なものになる傾向がある、ということを示す確固たる証拠がすでに存在する。				
4.	う				

## 講評

大問構成は I 期と同様、文法問題と長文読解問題 2 題であった。

- 1 : 文法・語彙系の問題が 15 問の出題であった。標準的レベルの問題ばかりであった。
- 2 : Pasty M. Lightbown と Nina Spada 著の『*How Languages are Learned*』という書物が出典元であった。「他者とのコミュニケーションで使うような家庭内の言語と、学校での学習に使うような学術的言語という 2 つの側面の言語能力の習得から見た、子供の第二言語習得」に関する英文であった。問題 4. の引用符が付された理由を答える問題は、日頃の英文読解の上で、単なる他者の言葉の引用ではないパターンの引用符の付け方を知っていたか、そして、それをきちんと読解に役立てて考えていたかといったことがポイントとなった。
- 3 : 「就学前の子供の他者と遊ぶ能力が子供のその後の精神衛生にもたらす良い影響」について論じた、Science Daily 誌のニュース記事が出典であった。問題 3. の和訳問題に関して、that 節中での“the 比較級 ~, the 比較級…”構文の理解がポイントとなる出題であった。that 節内でのこの構文の使用は一見特殊に見えるため、正確な構造を見抜くのに困難をきたした受験生もいたかもしれない。基礎に忠実に構文構造を見抜き、それに基づいて的確に処理する力を持っていたかが重要であった。

長文問題は I 期よりもかなり読みやすく、解答に時間のかかる問題がかなり減少していた印象を受ける。(逆に I 期が、時間のかかる問題が多すぎたとも言える。) 前置詞を埋める空所補充 4 択問題は、前置詞のイメージの理解まで踏み込まねばならないものもあったが、それ以外は空所補充問題も語句の意味特定問題も、難しい問題の出題はなかった。取りこぼししてはならない問題ばかりで、合格に必要なスコアは 7 割以上となるだろう。

### 渋谷校

 0120-142-760

受付 9 時～ 22 時 (日曜日のみ 19 時まで)

東京都渋谷区桜丘町 6-2

### 名古屋校

 0120-148-959

受付 9 時～ 22 時 (日曜日のみ 19 時まで)

名古屋市中村区名駅 2-41-20  
CK18 名駅前ビル 2F・6F

### 大阪校

 0120-142-767

受付 9 時～ 22 時 (日曜日のみ 19 時まで)

大阪府吹田市広芝町 4-3 4  
江坂第 1 ビル 3F

メルマガ登録 (無料) で全教科閲覧できます!  
右の QR コードまたは HP からメルマガ登録ができます。



■ 医歯専門予備校 MELURIX 学院

MELURIX